

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【公開番号】特開2009-5920(P2009-5920A)

【公開日】平成21年1月15日(2009.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2009-002

【出願番号】特願2007-170465(P2007-170465)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F	7/02	3 5 0 B
A 6 3 F	7/02	3 2 0
A 6 3 F	7/02	3 2 6 Z
A 6 3 F	7/02	3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月31日(2010.5.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技領域に向けて球を所定周期で1個宛に発射する発射装置と、

変動入賞装置により受け入れられた球を検出する検出手段と、

前記変動入賞装置を開放制御し、かつ、前記検出手段からの検出信号により賞球排出のための制御を行う主制御手段と、

前記主制御手段からの制御指令により報知手段を所要の態様で制御する従制御手段と、  
を有する遊技機において、

前記主制御手段は、

前記変動入賞装置の開放制御中及び開放終了後の所定期間以外のときに、前記検出手段から検出信号が送信されると異常状態と判定する異常判定手段と、

前記異常判定手段により異常状態と判定されると前記従制御手段に異常報知指令を送信する送信手段と、

前記異常判定手段により異常状態と判定されると計時を開始する計時手段と、を備え、

前記送信手段は、前記計時手段により所定時間の経過が計時された場合に、前記従制御手段に異常報知解除指令を送信するように構成され、

前記従制御手段は、前記異常報知指令により前記報知手段での異常報知を開始し、前記異常報知解除指令により異常報知を終了し、

前記計時手段が計時を開始してから前記従制御手段に異常報知解除指令を送信するまでに経過する前記所定時間は、前記発射装置が球を発射する前記所定周期の2倍以上に設定したことを特徴とする遊技機。

【請求項2】

前記主制御手段に接続されて所要の報知を行う第2報知手段を備え、

前記主制御手段は、前記異常判定手段により異常状態と判定されると、前記計時手段により前記所定時間の経過が計時されるまで、前記第2報知手段に報知信号を出力する出力手段を備えたことを特徴とする請求項1に記載の遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

以上の課題を解決するため、請求項1に記載の発明は、  
遊技領域に向けて球を所定周期で1個宛に発射する発射装置と、  
変動入賞装置により受け入れられた球を検出する検出手段と、  
前記変動入賞装置を開放制御し、かつ、前記検出手段からの検出信号により賞球排出のための制御を行う主制御手段と、  
前記主制御手段からの制御指令により報知手段を所要の態様で制御する従制御手段と、  
を有する遊技機において、  
前記主制御手段は、  
前記変動入賞装置の開放制御中及び開放終了後の所定期間以外のときに、前記検出手段から検出信号が送信されると異常状態と判定する異常判定手段と、  
前記異常判定手段により異常状態と判定されると前記従制御手段に異常報知指令を送信する送信手段と、  
前記異常判定手段により異常状態と判定されると計時を開始する計時手段と、を備え、  
前記送信手段は、前記計時手段により所定時間の経過が計時された場合に、前記従制御手段に異常報知解除指令を送信するように構成され、  
前記従制御手段は、前記異常報知指令により前記報知手段での異常報知を開始し、前記異常報知解除指令により異常報知を終了し、  
前記計時手段が計時を開始してから前記従制御手段に異常報知解除指令を送信するまでに経過する前記所定時間は、前記発射装置が球を発射する前記所定周期の2倍以上に設定したことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

請求項1に記載の発明によれば、異常状態を判定する異常判定手段と、異常状態で従制御手段に異常報知指令を送信する送信手段と、異常状態で計時を開始する計時手段とを備え、送信手段は、計時手段により所定時間の経過が計時された場合に、従制御手段に異常報知解除指令を送信するように構成され、従制御手段は、異常報知指令により報知手段での異常報知を開始し、異常報知解除指令により異常報知を終了するので、異常報知を行うために主制御手段が担う処理を軽減することができる。すなわち、1回の異常報知において、主制御手段が従制御手段に送信する信号は異常報知指令と異常報知解除指令の2つであるので、主制御手段が遊技球の検出毎に異常信号を出力する場合に比べ主制御手段が担う処理を軽減することができる。

また、請求項1に記載の発明によれば、変動入賞装置が設けられた遊技領域に向けて球を所定周期で1個宛に発射する発射装置を備え、計時手段が計時を開始してから従制御手段に異常報知解除指令を送信するまでに経過する所定時間は、発射装置が球を発射する所定周期の2倍以上に設定したので、異常報知を行うために主制御基板が担う処理を軽減することができる。すなわち、主制御手段から従制御手段への異常報知指令の送信を、主制御手段が検出手段から検出信号を送信される毎に行なうようにすると、例えば、不正な発射球が3個連続して発射と同じ間隔で変動入賞装置に入賞した場合に、異常報知指令を3回送信しなくてはならない。しかし、異常報知指令を送信してから異常報知解除指令を送信するまでに経過する時間を発射周期の2倍以上に設定したので、不正な発射球が3個連続して変動入賞装置に入賞しても指令送信回数は2回で済み、1回省くことができて主制御

装置の処理負担を軽減できる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0095

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0095】

タイマを設定する処理（ステップh6）では、タイマに所定時間（所定値）を設定する処理がなされる。このタイマの値は不正入賞監視処理が行われる毎、すなわちタイマ割り込み処理毎に減算（値が1デクリメント）されるようになっている。すなわち、遊技制御装置30が、異常判定手段（遊技制御装置30）により異常状態と判定されると計時を開始する計時手段をなす。なお、タイマに設定される所定時間は、所定期間で遊技領域1aに遊技球を発射する発射装置における発射間隔の2倍以上の時間とされている。例えば、発射装置が60000 msec（1分）間に100個の遊技球を発射する場合、発射間隔は600 msecとなり、タイマ割り込み処理が2 msec毎に行われるのであれば、タイマを設定する処理（ステップh6）において、タイマに600以上の所定値を設定するようにすれば良いこととなる。これらの処理により、異常状態の発生が報知されるようになる。